

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぶるるんるん			
○保護者評価実施期間	令和6年11月20日		～	令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数)	50
○従業者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和6年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	（事業所について）3店舗が連携してミーティングや研修を行い、支援を行っているので、その空間と職員の特性に応じた支援を行いつつ、色んな方向から子どもたちの成長にアプローチできる。またカリキュラムについても多面からアイデアを募ることができる。	支援内容の充実。具体的には、様々なお出かけ先による外遊びや、室内バランス遊具を使う（運動機能・五感を活用する）遊び、カードゲームやボードゲームの充実（巧緻性の向上、ルールの理解と定着）、制作物（めりえやプラ板、折り紙など数字や色・形の認識）等、5領域を考慮した支援を行えるように環境設定している。	常に新しいおもちゃを調べる等、子どもたちが主体的に遊びたくなるおもちゃや知育教材、遊び等を発見して導入する。これまでに行ったことがない新たな外出先の開拓のほか、行ったことがある外出先についても新たな活動のアイデアを発案して実践する。
2	（職員と保護者について）日々の連絡ノートや送迎時のやり取りのほか、定期的に懇談の場を設けたり、保護者会を開催するなどの工夫により、職員と保護者の方が打ち解けた雰囲気コミュニケーションをすることができる。	保護者の方によって話やすい職員は異なるものの、打ち解けている話しやすい職員がいることで、日々の子どもたちの様子を話中で、保護者の方の困り感を拾い上げたり、成長を感じていただくことができるようにしている。子ども同士の関わりを聞いたり実際に写真や動画で見ていただいたりすることで喜びを共感することができる。	様子を口頭で伝えるだけでは、雰囲気分かりづらいこともあるので、お見せできるときは動画も見ていただく等の工夫によって充実を図る。毎月1枚の写真の配布と半年に1回の写真データの提供を行っているが、頻度を変えて保護者の方とアプリで共有をすることで、より成長を実感していただけるようにする。できれば保護者会の回数も増やしたい。
3	（人との関わりについて）各事業所においてすべての学年の子どもたちが利用しており、特性もさまざまであるため、多種多様なコミュニケーションの機会を得ることができる。また、必要最低限の職員数ではなく、それ以上に多く職員を配置することで、見逃しや一緒に遊べない子ども達が出ないように工夫している。	予約時に子どもたち同士の相性を考え、快適に過ごせるように社内で工夫して利用予定を組み、きょうだい児のトラブルも回避できるようにしている。どの子も楽しめるように職員は子どもたちの様子を全体的に見て、その場に適した遊びや活動を提案したり、声掛けをしたりしている。	新規児童の受け入れや、職員の採用と配置についても、それぞれの事業所のバランスや特性を鑑みながら工夫している。コミュニケーションを充実できるようなカリキュラムの工夫（チームで協力して達成するゲーム等）をしたり、興味がある物事などの情報を事前に収集して会話の充実を図ったりする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常勤職員の回答から、事業所がどれだけ地域自立支援協議会に参加したり、アセスメントや支援の充実を図るための各種の工夫をしているかを周知できていない。	さらなる充実を図るため、子どもたちの実態や目標、事業所として取り組んでいること等を、パート職員にもさらに詳しく周知を図っていく必要がある。	相談受付やアセスメントのデジタル共有（情報の管理には十分に注意を払っています）を行っている。非常勤のパート職員に子どもたちの支援について、情報を見てもらいやすいように共有をしやすい場所に設置し、事業所での取り組み内容を周知する研修の機会を増やす。
2	障がいのない子と接する機会があるのか分からない保護者様もおられた。機会は増えていて、お出かけ先で鬼ごっこやボール遊び等を一緒にすることができている。 地域に開かれた事業所を目指し、更に一般の方と接する機会を増やすために今年度は一般公開日、もしくはお祭り等のイベントの計画を進めている。	遊べるような相手のお子さんであれば受け入れて外出先でも一緒に遊ぶようにしているが、一般の方とも一緒に遊べたような報告を連絡ノートや帰りの送迎でお話できていない。また全員ができる機会を持てているわけではない。	一般の方とどの子どもたちも接する機会を持てるように、当社にある就労継続支援B型事業所とも連携して、一般公開やお祭りの開催等の具体的な方法を検討している。
3	送迎時の当日のことについての説明の量について、職員によってばらつきがあるというご意見と、学校の先生との連携をどれくらいしているのか分からないとのご意見があった。	送迎時の説明については、次の送迎までの時間的な兼ね合いもあり、また室内に幼いきょうだい児がおられたり、バタバタとご飯の用意をされていたりする保護者の方が目立つので、送り時間の基本は1～3分程度を予定している。詳しく話すべきことがあるときはしっかり報告するとしている。 学校の先生とはその日の宿題の有無や内容、学校での様子等を毎回確認してお預かりしたり、必要に応じて担当者会議をしたり、電話連絡を行ったりしているが、その流れを保護者の方に毎回報告できてはいない。	詳しく話を聞きたいご家庭については、送迎する職員と実際に子どもと活動をしていた職員とで緊密に情報の引き継ぎを行い、より詳しく情報を把握してお話できるようにする。 「学校の先生とこのような内容を話しています」ということを職員間で共有し帰宅時に話す等、その日その子ๆが取り組んだことだけでなく、こちらが支援するにあたって取り組んだことも忘れずにお話するようにする。